

市比野大火から 50年

平成28年12月、鎮火まで約30時間続いた新潟県糸魚川市において発生した大規模火災は記憶に新しいところです。

今からちょうど50年前に、市比野温泉街でも同じような火災が発生しました。木造住宅の密集している地域では、気象条件が重なると、被害が甚大なものとなります。まずは、火を出さない、もし火が出ても小さいうちに消すことが大切です。



【概要・被害】

昭和43年7月25日22時15分ごろ、樋脇町市比野の温泉街に建つ揚げ豆腐製造場付近から出た火は、折からの強い風にあおられ、たちまち同温泉街の中心部に燃え広がり、温泉宿や病院、一般住宅など住家43棟、非住家1棟、合計約10,000㎡を全焼する大火となりました。損害額は約6,000万円で、現在の価値に換算すると、2億4千万円ほどになります。

ヒヤリとした事ないですか？ 着衣着火に注意して！



【編集】= 薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

屋外で枯れ草やゴミの焼却中に、風で火があおられるなどして付近の燃えやすいものに燃え移り、その後、着ている衣服にまで燃え移ったり、調理中にガスコンロの火が衣服に燃え移ったりすることを「着衣着火」といいます。この「着衣着火」で、本市では昨年3人の方が、今年に入り1人の方が亡くられています。

火災はちょっとした不注意で発生し、大切な命や財産を奪ってしまいます。火を取り扱っているときは、危険な作業をしているという自覚を持ち、火災の予防に努めましょう。



着衣着火の主な原因

普段の生活で着ている衣類に着火する危険性は、あらゆるところに潜んでいます。表面フラッシュ*が起りやすい衣類を着用していると、枯れ草の焼却中はもちろん、ガスコンロでの調理中、線香や花火などで着火する原因になります。

※衣類に火が燃え移った瞬間、衣類の全面を火が走る現象のこと

綿・植物性繊維・レーヨン・ネル地・モール系の生地や、表面に空気を含んでいるもの、起毛しているもの、けば立っているものは燃え広がりやすくなります。火を取り扱う際は、表面フラッシュが起りにくい衣類の着用を心掛けてください。

着衣着火を防ぐためには

- ①たき火や、ガスコンロでの調理中は火に近づき過ぎない。
- ②燃えにくい衣類(防災製品)を使用する。
- ③調理中、コンロ越しの作業は、必ず火を消してから行う。
- ④ガスコンロの奥に調味料などを置かない。
- ⑤仏壇に供え物をするときは、ローソクの火を消してから行う。



キッチンでの着衣着火を防ぐには



消防団員募集

まちを守る。安心をつくる。

【活動内容】

- 火災・災害活動出場
- 火災予防・災害警戒活動
- 各種訓練活動

* 薩摩川内火けし保存会

「木遣り隊」「はしご隊」「纏隊」「腕用ポンプ隊」で組織され、イベントや出初式などで活躍しています。

* 女性分団員

防火訪問や防災教室、ハンドベル隊「リリースベル」による防災メッセージ入り演奏などの活動をしています。

入団資格：本市に居住し、18歳以上で心身共に健康な方



消防団についてもっと知りたい方や、消防団員になりたい方は、消防局警防課消防係まで連絡ください。電話(22)0125

無人航空機(ドローン)の運用開始!

「株式会社サンテック」から無人航空機を寄贈していただき、運用を開始しています。

赤外線撮影や物件投下も可能で、画像転送装置と連動することで、離れた場所からでも画像を確認できます。また、大規模な災害や行方不明者の捜索時、火災現場での上空からの調査活動や安全管理など、消防活動の中で多岐にわたる活躍が期待されます。

